事例No.	1854
公表年度	R4
団体の属性	町村
団体名	熊本県苓北町

事例区分	公営企業

タグ	・下水道事業 ・公共施設活用 ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	GX

事例内容・タイトル

苓北町堆肥センターにおける下水汚泥の堆肥化

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【熊本県苓北町】
苓北町堆肥センターにおける下水汚泥の堆肥化

GX　下水道事業

熊本県苓北町水道環境課

● 取組の概要

下水汚泥を有効利用するため、堆肥化を行った。

◆総事業費　既存施設を利用しているため事業費はなし。

◆背景

- 汚水処理場において、汚水を処理する工程で発生する汚泥の処分先として、県外の業者に委託し、汚泥を処分していた。
- 平成13年に苓北町堆肥センターが供用を開始したことから、生ごみの処分と併せて汚泥の処分先として苓北町堆肥センターへの搬入を開始した。

◆具体的内容

- これまで、発生する脱水汚泥量の半分ずつを苓北町堆肥センター及び県外委託業者へ搬入していた。一方、令和2年度から苓北町堆肥センターの「牛糞回収手数料」及び「牛糞処理手数料」が無料となり、畜産農家からの牛糞の搬入量が増えたことから、堆肥製造の材料となる脱水汚泥の受入も増やすことが可能となるため、脱水汚泥の処分を苓北町堆肥センターへ集約した。

◆効果

- 汚泥を苓北町堆肥センターへ集約したことにより、運搬費が削減された（4,159千円→1,248千円：▲2,911千円）。
- 運搬距離が短くなったことにより、排出される温室効果ガスの減少につながった。
- 生ごみや汚泥を焼却処分しないことによる焼却費用や温室効果ガスの削減効果。
- 苓北町内で発生した生ごみや牛糞、下水汚泥を再利用することで、苓北町内で資源循環型社会の形成に繋がった。

● 取組のポイント

- 下水道の「不衛生」なイメージと汚泥含有成分（重金属等）への不安を払拭するため、脱水汚泥及び堆肥の成分分析結果を公表し、併せて地元農協を通して「安全宣言」の協力を得た。
- 特殊堆肥より価格を安価に設定した（15kg袋:特殊堆肥303円　汚泥入堆肥188円）。

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　6,758人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　67.58km²（令和4年1月1日時点）
- 処理区域内人口　5,234人（令和3年度決算）

汚泥入肥料のイメージ

牛糞
＋
生ごみ
＋
下水汚泥



● 取組のスケジュール

- 平成13年8月1日に苓北町堆肥センター供用開始。
- 平成17年から苓北町堆肥センターへ汚泥の搬入開始。
- 令和2年度から汚泥の運搬を苓北町堆肥センターへ集約。

● 今後の展望

- 近隣市と協議し、苓北町堆肥センターでの牛糞処理の共同化の可能性を検討する。
- 販売店舗が少ないので、販路拡大を目指す。